

カウカウ情報2025

9月市



光都農業改良普及センター

9月10日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が99万8千円、雌が86万8千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤 佐	3	0.960	987,800	5	0.873	783,200	8	859,925
丹波篠山	2	0.921	965,800	4	0.825	854,700	6	891,733
丹 波	14	0.922	993,064	15	0.831	876,040	29	932,534
朝 来	12	0.970	984,317	5	0.948	919,160	17	965,153
播 磨	14	0.899	958,493	23	0.820	803,957	37	862,430
美方郡	55	0.967	995,760	49	0.880	868,439	104	935,772
豊 岡	24	0.961	998,067	13	0.865	847,508	37	945,168
養 父	24	0.963	1,077,038	15	0.917	995,133	39	1,045,536
摂津・神戸	13	0.905	957,762	12	0.849	849,017	25	905,564
県北C	5	0.930	909,920	3	0.866	936,100	8	919,738
市場全体	166	0.950	997,581	144	0.865	868,450	310	937,597

9月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	丸若土井	28	0.964	1,061,736	19	0.881	973,211	47	1,025,949
2	丸池土井	13	0.918	1,024,862	3	0.871	881,833	16	998,044
3	照和土井	7	0.984	1,058,514	5	0.842	811,360	12	955,533
4	山伸土井	18	1.008	1,047,200	32	0.910	889,728	50	946,418
5	忠味土井	22	0.959	1,020,000	18	0.827	841,867	40	939,840
	総計	166	0.950	997,581	144	0.865	868,450	310	937,597
6	忠正土井	4	1.005	1,008,700	7	0.855	877,643	11	925,300
7	丸春土井	11	0.908	981,700	11	0.832	831,200	22	906,450
8	丸彩土井	20	0.926	903,760	18	0.845	838,628	38	872,908
9	茂貴波	10	0.903	881,430	2	0.878	788,700	12	865,975

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	丸若土井	B	A+	A++	A+	A++	A+
2	丸池土井	C	A++	D	B	A+	A++
3	照和土井	A++	A	C	B	B	B
4	山伸土井	A	A+ → A++	D	A+	A+	A
5	忠味土井	B	A+	A	C	A+	A+
6	忠正土井	C	B	A+ → A	C	B	B
7	丸春土井	C	B	C	B	B	A+
8	丸彩土井	B	B	A++	C	A	C
9	茂貴波	A → B	A+	D	D	B → C	B



バックナンバー
はここから

北部農業技術センター提供 (育種価評価は令和7年4月現在)

夏バテからの回復、秋以降の繁殖を良くするには？

はじめに

農場を回らせていただくと、「夏場は暑熱の影響で、繁殖成績が良くない」という話をよくされますが、8月時点では、比較的種もとまっている印象があります。むしろ、秋以降の繁殖性に暑熱の影響が生じる可能性があると感じています。そこで、今回は、受胎に重要な卵子の発育と暑熱の影響、今後の牛のケアについて考えてみましょう。

1 卵子の発育と暑熱の影響とは？

牛は、種付けを行い、精子と排卵した卵子が出会うことで最終的に受胎に至りますが、卵子がいつ頃から作られているかご存じですか？排卵の直前に作られているわけではなく、それより以前から、原始卵胞という卵の元が存在し、これが卵子として発育していきます。一般に原始卵胞が発育し卵子を排卵するまで2～3か月かかり、発育初期に栄養不足だと良い卵子にならないと言われています。従って、分娩前後の増飼いは、胎仔の成長や授乳のためだけでなく、次の繁殖に向け良いスタートを切るためにも非常に重要になります（図1）。

特に、夏場は暑熱による食欲低下で栄養不足になりやすく、発育中の卵子自体も暑熱の影響を受けやすいため、卵子の品質が低下し受胎性に影響を及ぼします。従って、9月以降に種付けに向かう牛は7月前後からの猛暑の影響を受け続けた卵子になるため、秋以降も暑熱の影響が生じる可能性があります（図2）。今後の繁殖性を低下させないためには、継続的な暑熱対策と夏バテした牛のケアに努めることが重要です。

2 夏バテ後の管理が重要です！

①牛にとって涼しい環境をつくる！

9月に入り夏場のピークは過ぎたとはいえ、まだまだ暑い日は続き、10月まで厳しい残暑となる予報もあります。そのため、継続した暑熱対策で少しでも涼しい環境をつくり、牛にかかる負担を減らしてあげることが大切です。牛舎内は風が通っているか、牛体に風が当たるように扇風機が設置されているかなど、今一度牛舎環境を見直してみましょう。また、寒冷紗を活用している方もおられますが、側壁や屋根にかけ

②飲水量の確保、採食量を落とさない！

少し気温が落ち着いても、なかなか食欲が上がらないという牛もいるかもしれません。しかし、特に分娩前後の牛については、暑さに加え、採食量の減少による栄養不足が今後の繁殖性に大きな影響を及ぼします。飲水量が制限されるとエサ食いも悪くなるため、新鮮な水が十分に飲め、エサを食べやすい環境を維持し、採食量を落とさず回復させることが大切です。ウォーターカップ等は清潔に保ち、十分に水が出るか吐水量も時々チェックしましょう。また、食べやすい濃厚飼料ばかり食べ、飼料バランスが崩れていることがあります。粗飼料も十分に食べられるように、こまめなエサの掃き寄せや傷んだ残飼の交換、草丈が長く食いが悪い自給飼料は細断するなど工夫して給与しましょう。

③ビタミン・ミネラルも補給しよう！

暑熱ストレスなどによりビタミンも多く消費しています。特にビタミンA・Eは繁殖機能（表）にも関与し、牛の体内では合成できないため、人の手で補給してあげる必要があります。また、暑熱ストレスにより酸化ストレスを受け、繁殖に影響を及ぼしますが、抗酸化作用をもつビタミンEの補給で暑熱ストレスの緩和にもつながります。

併せて、ミネラルの補給も行いましょう。皆さん、鉋塩などを設置されていますが、エサにまみれ汚れている、溶けてほとんどなくなっている農場も見受けられるため、牛が舐めやすい状態か改めて確認しましょう。

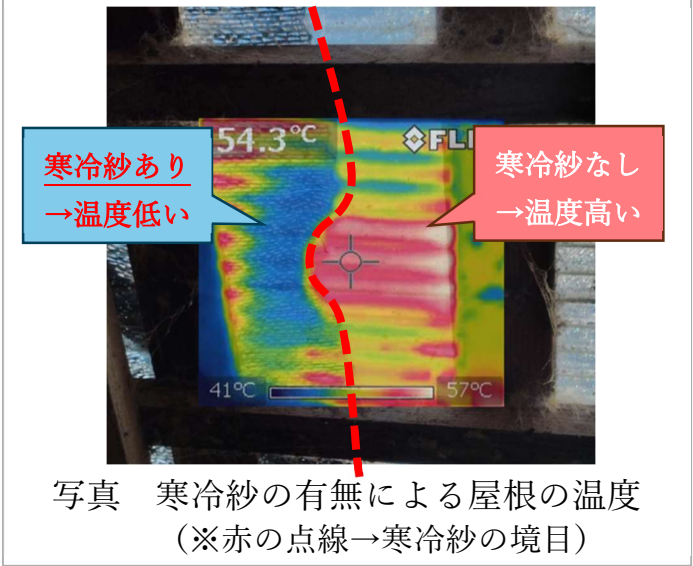
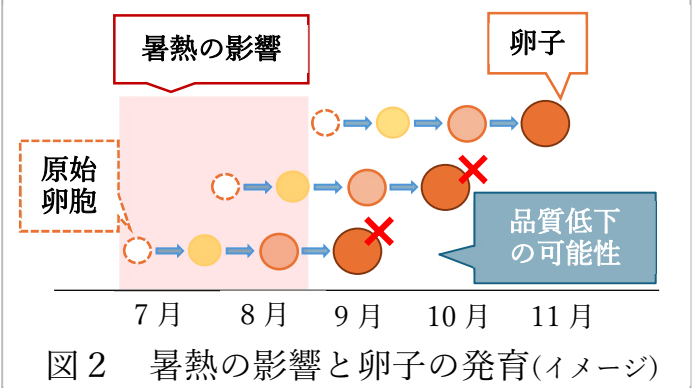
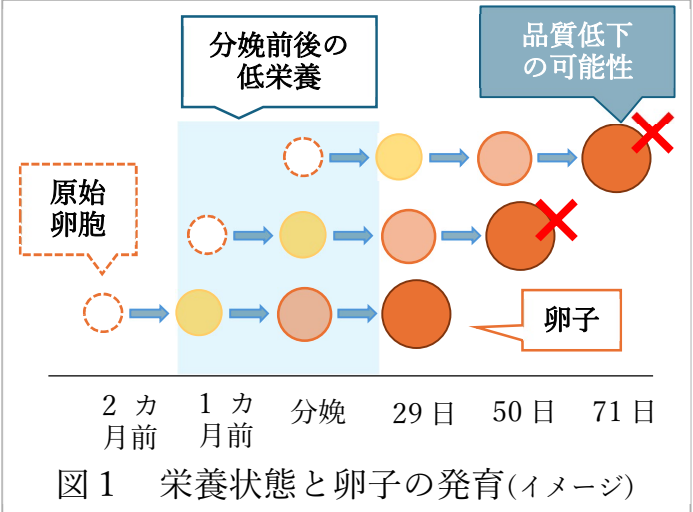


表 繁殖に関わるビタミンの機能

	機能
ビタミンA	発情や排卵、黄体形成に関わるホルモンの産生促進 など
ビタミンE	受胎や妊娠の維持に必要な黄体形成に関係、抗酸化作用 など

<まとめ>

- ・排卵時の卵子は2～3カ月かけて発育し、秋以降も暑熱の影響が続く可能性があります
- ・継続的な暑熱対策や飼養管理の見直しで夏バテした牛をケアし、繁殖性の低下を防ぎましょう